

# 休園・登園自粛、子への影響は

## こども環境学会が調査の中間報告

### 休園・登園自粛期間終了後の子どもの変化

特に見られないこと (「思わない」の割合が高い)	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児と保育者の信頼関係の遅れ</li> <li>園児の社会性の発達の遅れ</li> <li>園児の言葉の発達の遅れ</li> <li>園児の表現能力の遅れ</li> <li>園児の人との関わり方の遅れ</li> </ul>
意見が分かれていること	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児の運動能力の発達</li> <li>園児の生活習慣の醸成</li> <li>園児の自然との関わり方の遅れ</li> <li>園児の家庭での生活リズムの不規則によるマイナスの影響</li> </ul>
影響が見られること (「そう思う」の割合が高い)	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児の家庭でのゲームやメディア接触時間の増大によるマイナスの影響</li> <li>家庭での園児と家族の関わりが増えたことによるプラス面の効果</li> </ul>

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた休園・登園自粛中の子どもや保護者への影響、保育再開後の課題を共有、発信し、共に解決策を探りたいと考え、公益社団法人こども環境学会は「コロナ禍状況の保育所・幼稚園・認定こども園における休園・登園自粛への対応と子どもたちへの影響」に関する調査を実施。このほど、結果の中間報告を公表した。結果からは、園の子どもへの対応の変化、子どもたちの変化などが明らかになった。

## 園児と保育者の信頼関係の遅れ

# 7割が「思わない」

調査は全国の保育所・幼稚園・認定こども園を対象に7月15日から8月15日にかけて行い、273園が回答した。

外遊びの変更については53・5%が「特になし」と答えた。

【休園・登園自粛期間終了後の変化】「内容を増やす」が29・3%、「時間を増やす」が10・3%、「場所を増やす」が9・9%、「場所を増やす」が5・9%あった。この結果から、外遊びの変更については「積極的にこれまで通り外遊びを実施」が93%と分析されている。

また、「遊び込む保育」が制限されているかどうかは61・9%、子どもとのスキンシップの減少は61・5%、子ども同士のスキンシップの減少は74・7%が「思わない」と答えている。

【休園・登園自粛期間終了後の子どもの変化】園児の保育者との信頼関係の遅れは75・5%、園児の社会性の遅れは67・4%、

園児の言葉の発達の遅れは84・6%、園児の表現力の遅れは69・6%が「思わない」と回答。心強い結果が出た。

家庭での園児と家族の関わりが増えたことによるプラス面の効果について64・5%が「そう思う」と答えるなど、コロナ禍の休園・登園自粛の中にあつた肯定的な評価も明らかになった。

その一方で、園児の運動能力の発達が遅れているかについては「思わない」52・7%、「そう思う」47・3%と、意見が分かれた。園児の自然などとの関わり方の遅れも「思わない」52・4%、「そう思う」47・6%、園児の生活習慣の醸成の遅れも「思わない」56・

8%、「そう思う」43・2%と回答が割れた。

園児の家庭での生活リズムの不規則によるマイナスの影響は54・6%が「そう思う」と回答した。

このことから、毎日の規則正しい登園が園児の生活リズムづくりに大きな役割を果たしていることが再確認された。

園児の家庭でのゲームやメディア接触時間の増大によるマイナスの影響は「そう思う」が62・3%。家の

## 3歳以上着用「保護者の判断」3割

### 1割は「着けない」

【休園・登園自粛期間終了後の感染防止対策】3歳以上の子どものマスク着用については「保護者の判断」が34・1%で最も多く、「原則マスクをつけろ」20・9%、「マスク推奨の方向」16・5%、「マスクはつけない」15・0%の順に続いた。

このことから、園の方針当たっていることが読み取れた。

消毒については「必要に応じて行っている」31・5%、「定期的に行っている」28・9%、「使用の都度行っている」20・1%、「1日1回行っている」13・6%と、それぞれの園の方針と、それに基づく判断で実施していることが分かった。

### 続 保育の



秋田 喜代美  
東京大学大

1面に  
関連記事  
文科省再

「で小はかなあ校の作  
はと年したたあ校の作  
たちを  
た画